

# 進路指導部便り

令和7年9月19日  
第4号  
東京都立七生特別支援学校長  
黒澤 一慶

厳しい残暑も少しずつ和らぎ、過ごしやすい季節になってきました。夏季休業中におきましては、夏季進路先見学の御参加ありがとうございました。今回の進路指導部便りでは、夏季休業中に行った「夏季進路先見学」、1学期に実施した「高等部2年生インターンシップ」、卒業後に行う「定着支援」についての報告をお届けします。また、裏面では、実習での課題と向き合った卒業生の事例についての情報もお届けします。ぜひご覧ください。

## 夏季進路先見学

夏季休業中、保護者の方を対象に進路先見学を実施しました。本見学は、企業、福祉事業所、グループホーム等の活動内容や雰囲気を知り、今後の進路選択の一助としていただくことを目的に、2年前より始めたものです。

3年目となる今年は、14の事業所に御協力いただき実施いたしました。より多くの御家庭に御参加いただけるよう、各家庭2カ所までとさせていただきますが、応募多数のため一部御希望に沿えないこともありました。

参加された御家庭からは、次のような感想をいただいております。

「実際に作業している様子を見ることができ、卒業後のイメージが明確になりました」

「利用者の方々がいきいきと働いている姿に触れ、将来の姿を具体的に想像することができました」

「グループホームの見学は初めてで、将来の生活を具体的に考える良い機会になりました」

「親も見学することで子どもへのアドバイスがしやすくなり、有意義な機会となりました」

このように多くの保護者の方から前向きな御意見をいただきました。来年度以降も、より多くの方に機会を提供できるよう引き続き夏季進路先見学を実施してまいります。

## 高等部2年生インターンシップ

5/26～7/15の期間で、高等部2年生はインターンシップを行いました。1年次に経験し、2回目となる今回は、「広げる（1年次とは異なることにチャレンジする）」というテーマで行いました。広げ方は、「職種や仕事内容で広げた生徒」、「通勤距離や方法で広げた生徒」、「職場の雰囲気や広げた生徒」など、生徒個々により異なります。

また、2回目ということでインターンシップが近づくと、学級担任や進路担当の所に、「日誌のこの欄は何を書けばよいですか」、「事前面談の練習をお願いします」、「実習中どんな仕事をしますか」など、自ら聞きに来る生徒がいました。1年次の言われたことをやっていた様子から、2年次は過去の経験から自ら考え、行動に移すことができている。将来働くのは誰なのか、誰が実習に行くのか、身をもった経験から主体性が育まれていることに喜びを感じた一面でした。今回の経験を生かして、生徒自身が主体的に将来の進路先を自己選択・自己決定できるよう支援していきたく思います。

最後に、インターンシップでは多数の事業所の御協力を得て進めることができました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともインターンシップ、現場実習等への御協力をお願い申し上げます。

## 卒業生定着支援

卒業生の定着支援は、例年夏季休業中に実施しています。定着支援では、卒業後3年間、進路先の事業所に訪問等を行い、卒業生の様子を把握していきます。

一昨年度は、新型コロナウイルスの影響で訪問ができませんでした。今年度は、昨年度同様必要に応じて感染症対策をしながら、訪問を基本として実施しました。夏季の訪問では、環境への適応や仕事等の取り組みの様子を見て、事業所の職員の方とそれらについて確認してきました。本人や事業所が困っている等の状況があった際は、必要な支援について一緒に考え取り組んでいます。

# 実習での課題と向き合った事例（福祉事業所編）

（過去の事例より）

## 生徒 B さん

### 【生徒の実態】

- ・愛の手帳3度、自閉症スペクトラム症
- ・通学はスクールバスを利用し、一人通学の練習中。週2日は保護者と公共交通機関を使用して通学。  
（最終的には一人通学練習中のまま卒業）

### 【実習体験】

- ・高1インターンシップ（B型事業所、軽作業、外清掃）
- ・高2インターンシップ（B型事業所・食品）
- ・高2現場実習（B型事業所・食品） ※高2インターンシップと同じ

### 【実習先からの評価】

良い点：①作業が集中して取り組める ②体力がある

課題点：①実習時点では通勤が一人でできない（B型のため送迎がない） ②自発的な挨拶、報告ができない

### 【学校・家庭での取り組み】

#### ①自発的な挨拶・報告

- ・自発的な挨拶や報告を促すために、生徒に関わる教員は、教員側からの挨拶や報告の促しをしないことを徹底。学年教員だけでなく、作業学習や部活動に関わる教員、玄関でよく顔を合わせる管理職にも徹底。
- ・生徒には、「自分からする」という意識付けを学級担任と進路より定期的に指導。

#### ②一人での公共交通機関利用

- ・通所に向けた取り組みは御家庭と連携して協力していただくことに。
- ・通所する事業所の近くにスーパーがあったことも幸い、休日にそこまで一人で行き、現地で保護者と待ち合わせし、好きなものを買う経験を積む。

### 【改善後の様子】

#### ①自発的な挨拶・報告

- ・挨拶は、会釈から始まり、身近な教員へは声も出るようになる。報告はその場で立ち止まってしまうこともあったが、少しずつできるようになる。
- ・実習先の方も3年次の実習で変化に気が付いてくれる。まだ、完璧にはできないが、できるようになってきた点を高評価。

#### ②一人での公共交通機関利用

- ・一人でバスに乗車することに不安のあった生徒だったが、楽しみを取り入れることで前向きに練習に取り組むことができた。
- ・練習を重ねる中で本人の不安の解消、保護者の方の安心感を高めることに成功し、卒業後は無事に一人で通所。

自発的な挨拶や報告は、課題となる生徒が非常に多いです。自発的な行動の成長を妨げているのは、支援者の早めの動き出し（本人に失敗させないような先回り）であることも多くあります。今回のような挨拶や報告（相談）は支援側の心掛けが重要となるので、ぜひ、家庭内でも状況に応じて取り組んでもらいたいと思います。

公共交通機関の利用に向けては、学校の指導だけでは難しいことがあります。そのため、御家庭との連携は欠かせません。一人で公共交通機関の利用は、本人の不安よりも保護者の心配が上回ることがあります。GPSの利用など、本人が安全に公共交通機関の練習や利用することを見守るツールも増えてきました。ぜひ、幼少期から支援者（保護者・ヘルパー）と公共交通機関を利用する経験を重ね、その後の練習につなげていくことをお勧めいたします。